

岡崎の奥座敷・花園の里

奥殿学区

OKUTONO

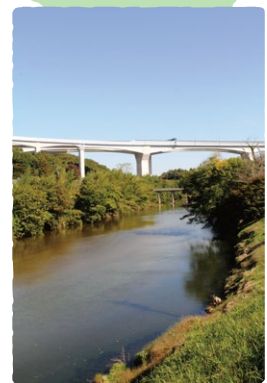


新世紀岡崎に 伝えたい郷土の歌「ふるさと奥殿」

昭和60年3月16日制定

作詞 奥殿小学校現職教育部 作曲 北原理恵子 編曲 中田直宏

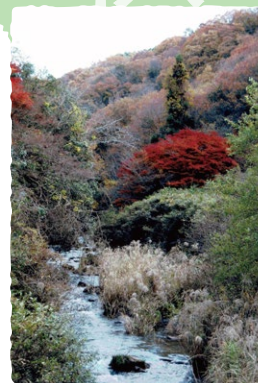
霞川 わらび萌え出で
村積の 緑たなびく
桜咲く 坂を登れば
仰ぎ見る 学舎静か
ああ奥殿 わがふるさと



二 陣屋跡 ささ百合咲けど
苔古りし 石は語らず
時計台 紅燃えて
赤十字 青史に薫る
ああ奥殿 わがふるさと

奥殿小の時計台

三 巴川 夕日に映えて
二畳滝 紅葉浮かべる
松風の 高鳴り聞けば
香山の いにしえ遙か
ああ奥殿 わがふるさと



四 大給路に 粉雪舞えば
幸祈る 餅花ゆれる
糸車 今もめぐりて
郡界の 流れは尽きず
ああ奥殿 わがふるさと



編集後記

今回の編集にあたり、あまりにも壮大で深い史実を積み重ねてきた歴史と先人の偉業を、この紙面をもってまとめ上げるには至難の業でありました。

しかしながら、市制施行100周年を機に、学区の残したい風景・伝えたい文化の伝承を、次代へ引継ぐ一助になれば幸いと思い取り組みました。

そして、伝統の継承者である未来（つぎ）の「奥殿っ子」へ、バトンタッチいたします。

〔作成委員会〕 林 勝/宇野定男/鳥居好三/杉浦 昇/
城殿 修/山口秀美/柴田和之/磯谷義夫/宮島孝夫
顧問：杉浦高志/内藤隆之/満本妙子

〔参考資料〕 奥殿学校百年の歩み/香山中沿革史/
岩松保育園 あゆみ/奥殿陣屋よもやま話/大給恒
と赤十字/大給の里/奥殿藩松平家/郷土産業の
発展/その他郷土史

〔表紙写真〕 奥殿陣屋書院を背景に、平成27年度奥殿小学校卒業生と担任並びに作成委員一同（2015年11月16日撮影）

奥殿学区 まちのなりたち

一七二一年 ■ 正徳元

奥殿松平家が**大給**に陣屋を置き、大給藩と称した
その後、4代藩主が陣屋を奥殿に移し、奥殿藩が誕生する

一八六三年 ■ 文久3

11代藩主松平乗謨（後の**大給恒**）が石高の多い信濃国佐久郡
田野口に居城を移す…**1**

一八七二年 ■ 明治5

公立である郷校奥殿学校が創立される。旧林宮寺（↓地図**F**）
を校舎とし、後に香山学校と称す

一八八〇年 ■ 明治13

香山学校が奥殿小学校と改称される

一八八一年 ■ 明治14

郡界川流域で「ガラ紡」が始まる…**2**

一九〇二年 ■ 明治35

奥殿小学校が奥殿尋常小学校と改称される…**3**

一九四一年 ■ 昭和16

奥殿尋常小学校が額田郡岩津町立奥殿国民学校と改称される

一九四七年 ■ 昭和22

額田郡岩津町立奥殿国民学校が岩津町立奥殿小学校と改称され、
香山中学校が岩津中学校の分校として設置される…**4**

一九四九年 ■ 昭和24

岩津町立香山中学校が認可される。三河地方で「ガラ紡」が
最盛期を迎える（しかし、その後約10年で姿を消す）

一九五三年 ■ 昭和28

岩松保育園が宮石町に開園される（↓地図**K**）

一九五五年 ■ 昭和30

合併により、奥殿小学校、香山中学校が岡崎市立になる

一九七〇年 ■ 昭和45

桑原町の巴川にカヌー練習場（↓地図**A**）が開設される

一九七二年 ■ 昭和47

県道39号（通称足助街道）が桑原町内で開通

一九八四年 ■ 昭和59

香山中学校が廃校になり、桑原町に新香山中学校が
開校される

一九八四年 ■ 昭和59

奥殿陣屋（↓地図**G**・特集）が復元される

一九八六年 ■ 昭和61

岩松保育園が香山中学校の跡地に移転される…**5**

一九八七年 ■ 昭和62

奥殿学区市民ホームが完工

一九九二年 ■ 平成4

奥殿学区こどもの家が完工

一九九三年 ■ 平成5

県道338号（桑原・川向線）が開通

一九九八年 ■ 平成10

市道（奥殿・日影線）が開通

同時に沿線では土地改良がなされる

二〇〇三年 ■ 平成15

桑原町に「香山の里」（↓地図**C**）が完工

11月から入居を開始する

二〇一六年 ■ 平成28

新東名高速道路が開通し、岡崎サービスエリアも
同時にオープンする…**6**

6 平成28年2月に開通した新東名高速道路の岡崎サービスエリア。宮石町にあり、東海地方最大級を誇る

5 奥殿小の隣にある岩松保育園。昭和28年から宮石町にあったが香山中学校跡地に移転した

4 奥殿小の隣にあった香山（かやま）中学校。昭和59年に新香山中学校となり、桑原町に移転した

3 明治5年に開校した奥殿小学校（当時は郷校奥殿学校）。平成28年9月で144年。明治34年に現在の場所に移転した

2 ガラ紡の動力となった水車。明治に始まったガラ紡績は、第二次世界大戦後に全盛期を迎えた

1 奥殿藩最後の藩主、松平乗謨。明治維新後、大給恒と名を変え、博愛社を設立した



□人	□	1,932人
	男性	985人
	女性	947人
□世帯数		651世帯
□面積		11.82km ²
[2016年7月1日現在]		

地名の由来

「藩の奥座敷的な御殿がある村」が地名の由来といわれている奥殿。豊田市の郷土史研究家が所蔵する文書に「奥殿旧大崎という所」という記述があり、奥殿松平の初代真次がこの地域を領した寛永4年（1627）以後に呼ばれるようになったと考えられます。

松平乗謨（大給恒）

10代奥殿藩主・松平乗利の二男として生まれた11代藩主（藩としては8代目）。幼少期より西洋事情に精通して、文久3年（1863）には信濃の田野口村に西欧流築城術の粋を結集した龍岡城五稜郭を建設したことで知られています。

幕府の要職を歴任した後、戊辰戦争の勃発と同時に職を辞して大給恒と改名。明治以降は龍岡藩知事、元老院議員、常勲局総裁、博愛社（日本赤十字社の前身）副総裁など活躍し、伯爵に列せられました。

香山学校

寛永4年（1627）、奥殿松平の初代真次によって創建され、父・真乗の菩提を弔ったといわれる梅香山林宮寺。

香山学校は、その梅香山林宮寺で開かれた学校でした。明治5年の学制頒布に伴い、当時は廃寺になっていた林宮寺を買い取ったのは大庄屋でもあった加藤善八郎。当初は奥殿学校という名称でしたが、翌年に奥殿藩の代官であった海保忠典氏を初代校長に招き、梅香山林宮寺から香山の文字をとって名を改めました。

ガラ紡

ガラ紡とは、明治8年頃に長野県出身の臥雲辰致が考案した日本独特の紡績機械。その名は、紡材を回すとガラガラと音を出したことに由来します。

奥殿では明治14年に三河木綿の産地に近い郡界川流域で始まり、当初は水車の動力を利用していましたが、大正期に電力化を果たして生産高が飛躍的に上昇。昭和24年の最盛期にはこの地域だけで約250社、従業員とその家族の約2000人が従事していました。その後は洋式の機械紡績に押されて急激に減少しますが、現在も「特紡」として2社の紡績工場が残っています。

背景は三河富士とも呼ばれる村積山。山頂に村積神社があり、毒石伝説も残っている。標高256.9m

竹林が風に揺れ、歴史の浪漫を感じる里

奥殿学区 まちものがたりマップ

奥殿藩は小藩でありながら、幕末には陸軍奉行、若年寄となる松平乗謨（後の大給恒）^{おきやうのりかた}、幕府海軍を設立し、徳川慶喜に仕えて大政奉還の奉還文を起草する永井尚志^{ながいなるよし}、茶道裏千家を中興する玄々斎宗室の3人を輩出しています。四季折々の花が咲く奥殿陣屋、鳥のさえずりが聞こえる二畳ヶ滝、苔むす龍溪院などを散策して、歴史の浪漫を感じてみませんか。



A カヌー練習場
昭和45年建設。市内唯一のカヌー練習場で、新香山中学校カヌー部が利用している



B 桑原神社
桑原町の氏神。江戸時代には相撲で有名だった。本殿の一部は陣屋大手門を移築



C 香山の里
平成15年完成の住宅地。自然や地域との共生を目指して開発された



D とのさんはし
郡界川と霞川の合流点に架かる橋。昔、殿様がここから奥殿陣屋を眺めた



L 御鞆神社
川向町の氏神。昭和初期に、郡界川水害の影響で高台に移築された



M 岩津発電所
明治30年に建設された水力発電所。中部電力管内で最古かつ最小の発電所



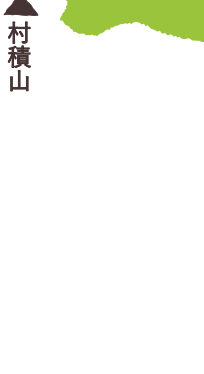
E 龍溪院
文安元年(1444)開基の曹洞宗の古刹。岡崎の苔寺。入口に羅漢、山門に仁王がある



F 林宮寺跡
奥殿藩菩提寺跡。9代藩主、松平乗美の墓が残る。奥殿小学校開校の地



I 奥殿神社
上奥殿と中奥殿の氏神。明治期に地域の4社を合祀して建立された



J 西光寺
三河一向一揆にも関連のある浄土真宗の古刹。500年以上の歴史をもつ



K 宮石八幡宮
宮石町の氏神。昭和60年まで、この境内には岩松保育園があった



N 二畳ヶ滝
高さ30m、幅7m。2層の流れをもつ郡界川の大滝。大蛇伝説がある



Q 日影神明宮
日影町の氏神。神社には珍しく社が山を背にして北向きに建っている



P 日影ダム
砂防ダムだが、地図にも載る大きなダム。放水景色が美しい



Q 正八幡宮
渡通津町の氏神。下宮と奥宮のある形式が特徴的。境内の崖下に地元でも謎のくぐれない鳥居がある

奥殿陣屋

岡崎市村積山自然公園

「花園の里」

「岡崎市村積山自然公園」の一部で、書院や日本庭園、食事処、農園などを持つ観光施設。昭和59年（1984）に移築復元されました。奥殿歴代藩主の墓石があり、毎年9月に法要が営まれています。

奥殿藩は、奥殿松平家の真次が大給に陣屋を置いたのが始まり。2代藩主・乗次（のりつぐ）の代に大給藩となりました。その後、正徳

元年（1711）に4代藩主・乗真（のりまね）が奥殿に陣屋を移して奥殿藩が誕生しました。その後、文久3年（1863）に11代藩主・松平乗諒（のりかた）が信濃国佐久郡田野口（旧白田町、現長野県佐久市）に居城を移すまで、7代152年に渡って陣屋が置かれました。現在では、龍溪院の庫裏として使われた旧奥殿陣屋の書院を陣屋跡地に移築し、日本庭園、バラ、梅、水仙などの風情を楽しむことができます。（↓地図6）



江戸初期の作風を生かして復元された逢萊の庭



歴代藩主の御廟所。法要風景



玄々斎宗室生誕の碑

大澤山 龍溪院

曹洞宗の名刹

文安元年（1444）、豊田市度合の豪族、土井九郎左衛門が開基し、松平広忠が再興した曹洞宗（禅宗）の寺。参道には樹齢200年を越す杉の太木が20m程の高さにそびえています。右手の崖に苔むした十六羅漢が立ち並び、境内一面にも苔がはえて「岡崎の苔寺」とも呼ばれています（↓地図E）。



龍溪院仁王門

龍溪院仁王像（阿形像）

龍溪院仁王像（吽形像）

奥殿小学校の学校交流

奥殿小学校では、昭和39年より沖縄県石垣市立大浜小学校と、昭和60年より長野県佐久市立田口小学校と、それぞれ姉妹校交流を続けています。石垣市は岡崎市の親善都市、佐久市はゆかりのまちです。平成26年には、姉妹校締結50周年を迎えた大浜小学校で記念式典が行われ、郷土芸能を披露したり、記念植樹をするなど交流を深めました。

佐久市立田口小学校



ともに奥殿藩の領地であった奥殿と田野口（長野県佐久市）。歴史の縁で、相互訪問交流を30年以上続けています（写真右）交流の一環で岡崎公園を訪ねました（写真左）

奥殿小学校の伝統行事

奥殿小学校では、PTAや地域の協力を得て、4月に「わらびがり」、10月の学芸会での「竹寒天」配布、1月の「もち花づくり」などの伝統行事を行っています。

昭和53年から「もち花づくりの会」を行っている奥殿小学校。自然あふれる学区の竹を材料にし、もち花については、PTAが中心となって作ります。最後に子どもたちが、短冊に一年の目標を書いて仕上げる伝統行事です。わらびがりには地域の方々の協力

により、児童が採集したわらび等を奥殿陣屋前で販売しています。学芸会ではPTAのみなさんが竹を切り出すところから始め、竹寒天がつくられて全校児童と参観者に配られます。



4月

わらびがり

地域の方に感謝して、丁寧にわらびを摘みます



10月

竹寒天

学芸会での竹寒天。劇をがんばったご褒美です

もち花づくり

願いを込め、竹の枝に紅、白、緑のお餅の花を咲かせます（写真上）お餅つきも楽しみの1つ（写真左）



石垣市立大浜小学校



太平洋戦争沖縄戦に関する縁により始まった沖縄県石垣市大浜小との交流。平成26年に50周年を祝いました



大浜小との交流会。奥殿小学校は地元の神社で行う巫女舞を（写真上）、大浜小学校は伝統的な棒術を披露しました（写真左）